

平成25年度学校評価における課題と対応

(1) 学力向上と進路意識の高揚について

○学力向上を図るため、生徒が主体的・意欲的に学習できる教育環境を整え、基礎的・基本的な学力の定着と社会の変化に対応できる能力を養うため、様々な取り組みを進めた。

【コース選択制】

生徒の進路目標実現に向け、本年度2年生のコースを改編を行い、特別進学コースおよび標準コースの2コースによるコース選択制とした。昨年度、1年生でのコース選択にあたっての指導方針は、生徒・保護者を含めた面談などを通じ、本人の進路希望にあわせ、学力及び適性等を考慮した上でコースを選択し決定した。特別進学コースは、おもに国公立大学への進学に対応した学習内容及び授業進度のコース設定となっている。また、標準コースは、大学進学を含めた多様な進路に対応したコース設定とした。今年度は、新しいコース設定での初めての年でもあり、ビジョン委員会等で状況分析や今後の進め方について検討した。また、具体的な問題点や今後の課題については、学年会等で検討するとともに、ビジョン委員会が中心となり今後の対応策も含め、内容充実のための取り組みを進めている。

【授業時間の確保】

授業時間確保のため1単位時間50分、週33コマを実施することにより、週当たりの授業時間数を増やし、弾力的な時間割編成を行った。

【習熟度別少人数編成授業】

生徒の多様な学力への対応や指導効果を上げるため、1年次の英語・数学、2・3年次の英語において習熟度別授業を実施し、学力に応じた授業を展開している。3年次では選択科目を設け、多様な進路希望に対応した。

【自学自習力の向上】

自学自習の力を身に付けるため、予習復習を前提とした授業の工夫を行うとともに、個人学習ブースを整備した自習室「耐久学習舎」を充実させている。特に「耐久学習舎」「301講義室」など校内の学習スペースの活用を勧めた。これにより、学校全体が「学びの場」としての雰囲気を作り出し、生徒の学習習慣づくりと学ぶ集団づくりの拠点作りを目指した。

【進路意識の高揚】

生徒が自分にふさわしい進路を主体的に選択・決定できる能力・態度を育成するため、様々な取り組みを進めた。

主な内容として「LHR」「総合的な学習の時間」などでの進路学習、進路の手引の発行や大学で学ぶ専門性の高い授業を本校で受講させる「大学セミナー」、進路講演会、各種模擬試験などを行うことにより、生徒が進路決定に向けて意識高揚を図るための様々な取り組みを実践した。また、大学進学に対する意識高揚のため、和歌山大学オープンキャンパスに生徒70名が参加するなど、大学生生活をイメージし、実際に体感させる機会を増やすことができた。

(2) 自主活動に対する生徒の意識の高揚について

集団活動を通して、調和のとれた心身の発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方・生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養うため、様々な取り組みを進めた。

【特別活動の充実】

本校の生徒の84.2%（2月現在）がクラブに加入し、文武両道を目指し熱心に取り組んだ。特に、空手道部、バドミントン部、マンドリン部、書道部、放送演劇部、囲碁将棋部、自然科学部、美術部等、多数のクラブが全国大会に出場し活躍した。また、生徒会活動も大変活発で、スポーツ祭や文化祭等の学校行事も生徒会やクラス委員を中心に生徒達で企画・運営を進めた。

【学校行事の充実】

授業日数を確保するとともに、学校行事の配置を見直し、考査や行事をバランスよく設定することによって、メリハリのある学校生活を送ることができるよう計画した。昨年度、災害のため実施できなかったロングハイキングの再開、他沖繩修学旅行、文化祭等様々な学校行事を実施した。

【ボランティア活動等の充実】

「エコキャップ運動」などを通じ、地域との結びつきを大切にしながら、校内においてもこの運動をさらに充実させた。また、ペットボトルキャップの回収をきっかけに、ゴミの分別問題などの環境学習を進めることで、生徒の人間性と主体性を育成し、地域とともに歩む学校づくりに繋がった。

【ホームルーム活動や生徒会活動等】

学校評価結果から、自主的なホームルーム活動や生徒会活動が低調と感じる生徒・教員が増加傾向にある。生徒会役員は今年も他校との交流を深めたが少人数のため、活動内容を学校全体に広げる必要がある。また、1・2年においては、クラス独自のロングホームルームが少なくコミュニケーションや計画・実施とできていないのが現状であるため、来年度は少しでもロングホームルームを増やし、生徒が主体となり活発な活動ができることを期待したい。

(3) 生徒の社会的自立を醸成する生徒指導について

教育の総ての機会を適切に捉えて、全教員が生徒の自覚・自立を育成することを目指し、生徒一人ひとりが個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目標に、様々な取り組みを行った。全職員が一致した指導を行うことを確認するとともに、生徒の身だしなみや生徒の遅刻等に対応するため、毎朝職員が交代で登校時の校門指導や、職員会議の翌日の全職員による服装身だしなみ指導を、今年度も引き続き実施した。様々な機会を通じ、生徒の服装等の身だしなみに関する意識向上を進めた。特に頭髪指導、遅刻指導、携帯電話指導他、年間を通じ生徒指導部が中心となり徹底した指導を続けた。また、いじめ問題への対応として、5月、10月、1月に、いじめの状況把握のためのアンケートを年3回実施した。アンケート記載の内容で、いじめに関わる内容については、担任が生徒個々と面談を行い、状況に応じて教育相談係、生徒指導部、学年会、全職員の共通理解のもと、解決に向け組織的に取り組んだ。また2月には、いじめ問題等が発生した場合の対応に向けて、法律に基づき対応組織をつくとともに、対応方針を策定し、内容は本校ホームページ上で公開している。

(4) 国際理解教育の推進について

国際理解教育推進のため、アメリカ ミネソタ州 ケンブリッジ-アイサンティ高校、ニュージーランド ベイ・オブ・アイランド ケリケリ高校、中国 広東省 広雅中学校と姉妹校提携を結び、学校と地域が一体となって国際理解教育推進活動を行っている。6月には国際交流30周年記念事業国際フィールドワークを実施した。7月にはアメリカ姉妹校より生徒5名・教員2名、ニュージーランド姉妹校より生徒10名・教員2名の短期留学団を受け入れた。また11月から1月には2か月間の留学生としてニュージーランド姉妹校の生徒1名を受け入れた。3月にはアメリカ姉妹校へ生徒14名・教員2名の短期留学団を派遣予定である。今後もアメリカとニュージーランドの姉妹校との交流プログラムを継続実施し、地域に根付いた国際交流活動として発展させていく必要がある。

(5) 危機管理体制の充実について

地震・津波に対する科学的な知識と危機意識、生命の尊重と自助・共助の精神を持ち、事前防災や災害発生後の活動に積極的に取り組む人材を育成するため、様々な取り組みを実施した。主な内容として、災害時自らの身の安全確保や、学校や地域における共助の担い手として、積極的に行動できる高校生を育成するため、本校独自の防災スクールを実施した。実施においては、湯浅広川消防組合・和歌山県防災課等の協力を得た。また、本校屋上は、地域の津波避難ビルに指定されているため、津波災害が予想される場合は、この場所が地域の避難場所になる。このため、地域の小学生に避難場所を確認してもらうことで、子ども達が地域防災の一躍を担ってくれることを願い、小学生対象の避難経路確認会を実施した。このほか、本校生徒には「総合的な学習の時間」において、防災訓練・避難訓練等を実施し、地域の「稲むらの火祭り」では、ボランティアとして参加した。また、危機発生時における災害時の対応マニュアル策定や点検・見直し、校内防災計画の周知徹底、避難経路の点検と安全な避難路の設置などを行った。併せて避難訓練を行い、地震・津波災害などに備えている。不審者侵入対策について、施設設備の改善や人的配置では対応に課題もある。今後、生徒・教職員の意識の向上をめざし、地域防災の担い手として貢献できる人材の育成を目指したい。

(6) 校訓・校史等の生徒への周知・理解と教育活動への活用について

本校の歴史や伝統、「真健美」の校訓を生かした取り組みを継続実施している。主な内容として、1年生対象の入学オリエンテーション、稲むらの火の館の見学、「先輩が先生」講演会等、生徒に対し校訓・校史等について、周知・理解させる取組を実施した。今年度の生徒の学校評価結果においても、校訓・校史等の生徒への周知・理解を高める必要があり、今後についても、様々な機会を通じ、生徒の理解度を深めたい。

(7) その他

P T A活動や家庭や地域社会との連携・協力を図り、学校の教育目標の具現化を進めていく必要がある。学校の持つ様々な課題改善のため、授業評価・学校評価・学校評議委員会などで示された意見などを参考に、活力のある学校づくりを進めている。また、今年度は、地域の小学生対象に進路学習会を行い、その際本校の歴史や伝統・特色ある学習内容などとともに、本校が地域の学校として実施している取組内容を説明した。このほか、学校説明会・ホームページ活用等も含め、様々な機会を活用し学校の状況を地域社会に伝え、透明性のある開かれた学校づくりを目指したい。